

事務局より返事を行ない、更に理事会に於てこのことが了承された後、再度理事長名で通知を行なった。

第一回理事会は1979年2月24日に楽友会館に於て開催された。理事総数29、出席11、委任状13であった。理事会ではまず総会の議事録が承認された後、理事長として竹浪祥一郎氏が選出された。また理事会内規、編集内規、投稿規定、編集委員会と事務局の構成及び事務局の所在地が決定された。それから創刊号のおおまかな編集方針が決定され、とこれに関連する会員の拡大と財政の問題が論議された。また会長については当面空席にすることになった。

会員に全体の動きを伝えるために News Letter の第1号が1979年3月27日付で発行された。

4月17日に事務局会議が開かれ、理事会の議事録について確認を行なった。

編集委員会は5月19日（第一回）、6月30日（第二回）、9月22日（第三回）、1980年1月19日（第四回）が開かれ、3月29日には京都市左京区の喫茶店東一城において午後二時から第二回理事会が開かれた。ここで第一号の掲載論文が最終的に決定され、また分野別のクロニクルの執筆者が依頼された。会誌第二号の編集方針もここで決定された。理事会では80名の新入会員の承認を行ない、会員総数はこの時点で287名となった。会誌第一号は8月28日に会員宛に発送され、同時に同日付けで News Letter の3号が発行された。

第32回 1990年京都大学十一月祭エスペラント語研究会のパンフレット。

エスペラントと私*

私がエスペラントを学んだのは、高等学校の時であった。そのとき英語の知識から、エスペラントがラテン系の言語であると思った。しかしその後色々な言語

*原文は日本語。エスペラント訳は同研究会部長大信田丈志氏による。なお、第36回十一月祭(1994年)の際にも掲載された。

を学ぶ機会があつて、この言語が、さまざまな言語の特徴を取り入れていることに気がついた。今は言語理論の立場から、この言語のもつ性質に興味がある。エスペラントを学ぼうとする人には、色々な動機があると思われる。世界旅行をしようという、実践的な目的をもっている人もいるだろう。外国の人と文通をしたり、話をしたりしたいという人もいるだろう。それはそれでもよいが、ザメンホフのもっていた理想も、どこか心の隅においていてほしいと、思う。

山口 巖 教養部・ロシア語

Mi lernis Esperanton, kiam mi estis en altlernejo. Tiam mi pensis laŭ mia scio pri la angla lingvo, ke Esperanto estas latinida lingvo. Sed poste mi havis ŝancon studi diversajn lingvojn, kaj mi rimarkis, ke la lingvo alprenis karakterojn de plej diversaj lingvoj. Nun mi interesigas pri la eco de ĉi tiu lingvo de la vidpunkto de lingva teorio. Mi pensas, ke oni eklernas Esperanton pro diversaj motivoj. Eble iu havas praktikan celon, ke li vojaĝu tra la mondo. Eble iu deziras aŭ korespondi aŭ paroli kun alilandaj homoj. Tio ja estas bona, sed mi volas, ke la lernantoj memoru la idealon de Zamenhof eĉ en la angulo de sia koro.

YAMAGUCHI Iwao, prof. pri la rusa lingvo
(el la japana originalo tradukita de OOSHIDA Takeshi)

「教養部支部ニュース」特別号 1991 年。

「“実りある教養部改革”を求めて」を読んで

この度標記のような文書が支部委員会から発表された。一読してさまざまな感懐が期せずして横溢するのを禁じ得なかった。折しも支部の要請もあり、一文を